

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470800885
法人名	株式会社 森伸
事業所名	ケアパートナー 森伸小俣
所在地 (電話番号)	伊勢市小俣町明野1308 (電話) 0596-20-5100
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 28 日(水)

## 【情報提供票より】 (H21年1月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.16人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( 48,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300円			

### (4) 利用者の概要( 1 月 12 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		10 名	要介護4		3 名	
要介護5		3 名	要支援2		名	
年齢	平均	83.7 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	荒木内科循環器科 豊浜歯科医院 山田赤十字病院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近鉄宇治山田線沿線、駅から徒歩3分。一般住宅や農家と農地が見られる比較的静かなところである。平成18年3月に開設された2ユニット(2層構造、1階部分で通所介護と連結)のグループホームである。運営者(管理者)は日本ヘルパー協会三重県会長を務めながら多くの福祉事業に携わっている。常に利用者主体に物事を考えながら職員の育成に熱心に取り組んでいる。研修機会も多くとり受講手当てを支給するなど職員の質の確保にも力を注いでいる。ホームには重度の利用者が多いが職員は日々の自己研鑽と介護経験を活かしながら利用者の持てる能力を大切に和やかで優しい支援をしている。これまでに5名の最期の看取りにも職員全員で協力しあいながら熱心に介護した。職員は今でも肉親と同様の寂しさを感じている。ご家族からは感謝とお礼の言葉を頂いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での取組みを期待したい内容のなかで「地域との付き合い」「食事を楽しむことのできる支援」「鍵をかけないケアの実践」の何れにも努力と前進が伺えた。引続き利用者主体にサービスの向上を期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者及び職員は評価の意義、目的をよく理解している。今回の自己評価も全員で取り組んだ。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はこれまでに8回実施している。単に報告や情報交換だけでなく、地域密着型サービスとしての取り組み方など会議メンバーと具体的な課題を話し合い率直な意見をもらい、地元の理解と支援を得ながらサービスの向上に繋がることが期待される。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は利用者・家族と何でも話し合える関係が出来ている。相談、苦情があれば即全員で検討、改善に努めている。その都度対処し改善記録も残している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は地域行事や地域活動に参加し交流の場を広げたいと考えている。事業者側からの働きかけや、運営推進会議のメンバーの協力、話し合い等により地域の理解と交流を深められることを期待する。(例えば、学童の社会実習の受け入れ、園児等との交流、地域行事の情報入手と参加、施設行事へ地域住民への参加呼びかけ、その他)</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「一人の人を大切に」を基本にして、施設(グループホーム及びデイサービス)は「その人を想い」「寄り添い、共に生きる」ことを掲げ利用者と共に地域で普通に暮らしていくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の共有が基本であると考えている。会議、日々のミーティング等機会ある毎に互いに確認し合い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には、法人の入会はできず回覧等も回ってこない。管理者、職員は地域とのつながりの大切さを認識しながらも重度の利用者もあるため老人会や地域行事への参加もしていない。近所の方から野菜作りを教えて貰ったり、野菜を頂いたりすることはある。	○	管理者は可能な限り地域行事や地域活動に参加し交流の場を広げたいと考えている。運営推進会議での意見交換や施設側からの働きかけで地域の理解と交流を深められることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義目的をよく理解している。今回の自己評価も全員で取り組んだ。前回外部評価の課題についても全員で検討しサービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者(市議員)、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所側役職員で構成し平成19年1月に第1回を開催。これまでに8回開催されている。議事録等の拝見は出来なかったが内容は漸次充実しつつある。	○	会議メンバーと単に報告や情報交換だけでなく、地域密着型サービスとしての取り組み、具体的な改善課題を話し合い地域の理解と支援を得るため率直な意見をもらいながらサービスの向上に活かしていくことが期待される。また会議の記録も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者(運営者)は市の介護保険課、障害福祉課へ月2~3回訪問しその時々報告と情報の入手に努めている。		
sy					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人便り年4回、別途2ヶ月毎に担当職員が各家族あてに利用者の健康状況、日常の様子など詳細に記し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は出来るだけ家族や利用者の希望や意見、苦情を聞きだすように努めている。苦情等があれば記録し即全員で話し合い対応している。ご意見箱を設置してあるが投書はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員養成、職種経験、適材適所を考え法人内異動はあるが利用者への影響なきよう最小限に止めている。引継ぎ期間も充分(新任、後任のダブリ勤務)に取っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保、育成が不可欠であるとして内外研修の年間計画に沿って実施をしている。都合により受講出来なかった職員には改めて機会を与えるようにしている。また受講に対する手当でも支給している。資格取得等士気の高揚に繋がっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊勢市介護保険サービス事業所連絡協議会に加入している。会合やバスツアーにも参加し職員間での情報交換に努めている。また管理者は三重県ホームヘルパー協会会長(日本ヘルパー協会理事)として広く福祉関係者との交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族によく説明をすると同時に施設見学や利用者との会話の中で馴染んで貰うように努めている。時には併設のデイサービスを利用し環境に慣れてもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のこれまでの暮らし方、経験、能力を大切にしながら、お互いに協働して和やかに過ごせるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートや介護記録、日々のしぐさ、利用者同士の会話等から思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望、意見も取り入れながら、職員全員で一人ひとりに合わせた介護計画書を作成し家族の承諾も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎に見直しをしている。また状況変化があればその都度全職員で検討、家族の意見も取り入れ見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、買物、協力医への通院など日常生活全般に、職員が柔軟に支援している。かかり付け医への定期通院や受診はご家族にお願いしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	副施設長は看護師であり日々利用者の健康管理には充分気を配っていると同時に協力医及びかかりつけ医との情報交換を行なっている。緊急時の対策も確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については家族や、医師との相談の上できるだけ満足を得られる対応をしている。これまでに5名の最期を看取っている。職員もこれまで共に寄り添い暮らしてきた利用者であり家族同様の寂しさを実感していた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は非常に穏か且つ和やかであり利用者の表情も明るい。個人情報の取り扱いも適切に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活リズムを保ちながらも利用者一人ひとりの体調、希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は法人厨房で一括調理し配られている。(朝食と週3回のリクエストデーには事業所で作っている)準備、盛りつけ、後片付けは利用者と職員と一緒にしている。職員も介助をしながら同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に特別な制限や決まりはない。希望に応じて自由に出来る体制をとっている。一方入浴拒否の利用者には状況を看ながら説得に努め最低でも週2回は入って貰えるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や経験、楽しみごとが出来るように道具や材料を準備し、楽しみごとや役割への支援をしている。(洗濯物たたみ、おしぼり作り、家庭菜園、収穫、趣味(将棋、生け花、折り紙等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、庭での日光浴、買物、また時には季節に応じた花見やドライブに出かけている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階はデイサービス室とつなげられていて(暖簾で仕切り)通常、玄関はデイサービスとグループホームの2ヶ所あるが鍵はかけていない。本来事業所としての玄関は建物裏側に位置し安全面から各階ユニット出入口扉のみ必要に応じて施錠している時がある。	○	管理者及び職員は鍵をかけることの弊害をよく理解している。各居室窓を含め建物玄関の開閉は夜22時から翌朝7時頃までの間(夜勤者のみの時間帯)に限り、センサーにより警備保障に通じる設備がセットされているが他の時間は解除している。引続き利用者の心理的な不安、閉塞感への配慮と工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回消防署の協力を得て利用者を含め消火器の使用体験や避難訓練を実施している。全職員が救命処置の指導も受けている。また管理者は地域との関係性も高めたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事及び水分摂取量を記録し体調管理に気配りをしている。食事メニュー、バランスについては、法人の管理栄養士が定期的に確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は消臭、抗菌、防カビ仕様で採光もよい。共用空間には家庭的な家具が置かれゆったりと過ごせる場になっている。装飾的なものは少ないが見やすい所に時計の設置と手作りカレンダーにも季節に応じた工夫をし(2月は節分)見当識への配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は冷暖房完備、利用者夫々が使い慣れた家具、趣味用品を持ち込み居心地よく過ごせる工夫をしている。中には畳敷きになっている利用者、また、逆に余分なものは持ち込まず事業所が設置した備品で充分との利用者もあり強制はしていない。		